

No.38号

社教連会報

発行 社団法人 全国社会教育委員連合

〒100 東京都千代田区霞が関3-2-3
国立教育会館内 Tel 03-3580-0608

「生きる」という意味

(社)全国社会教育委員連合理事
徳島県社会教育委員連絡協議会々長

富士 貴志夫

「生きる」という題名の黒沢明監督のすぐれた映画があった。主人公は都会の区役所に勤める中老の吏員である。

あんまり、やる気がない。身体の具合も悪い。ある日、医者から最悪の宣告を受ける。絶望状態のなかで、彼は後わずかしが残っていない命の価値を発見する。公園課の吏員であるが、主婦たちの陳情による児童公園の建設に努力することを決意する。

ほとんど殺気立ったような彼の熱心さで公園は完成した。志村喬が完成した公園のブランコに乗って、「命短かし……」とうたうラストシーンを覚えている人も少なくないと思う。感動的な名作であった。「生きる」決意をした人間には驚くべき可能性があるということ映画は教えてくれた。「生きる」ことの意味をできることなら青少年時代から発見する方が幸福なのではないか。そういう意味で向老教育は小学校教育から始めるべきだと思う。

森鷗外の小説「青年」のなかにつぎ

のようなくだりがある。

「二体日本人は生きるといふことを知ってゐるのだろうか、小学校の門を潜つてからといふものは、一しよ懸命に此学校時代を駈け抜けようとする。その先には生活があると思ふのである。学校といふものを離れて職業にあり附くと、その職業を為し逐げてしまはうとする。その先には生活があると思ふのである。そしてその先には生活はないのである。」

この鷗外の慨嘆はいまも通じてるのではないか。鷗外が言う「生活」とは何か、考えさせられる。

映画「生きる」と鷗外の「生活」に共通する点は、私の理解では自発的な個性の発揮ではないかと思う。

国立教育研究所フオール報告書検討委員会が訳した「未来の学習」の原題は「生きるための学習」である。私はフオール・レポートの原題のままでもよかったのではないかと考えている。「生きるための」という意味が深いか

らである。ハムレットの名セリフ、「生きながらうべきか、死すべきか」の英語も「ツー・ビー」であった。

生涯学習は、まさに「生きるための学習」なのである。暇と金のある人の余芸などでは決してない。

たとえば、私の地域で「西洋史の会」という自主学習グループがあるが、その会員の一人がつぎのように話してくれたのが印象的であった。「歴史の学習がこれほど楽しいとは思わなかった。自己を知るためにも、自分自身の世界を広げるためにも、自主的に学ぶことは素晴らしいことです。」

この言葉は、テスト中心の学校教育の歴史学習への批判でもある。楽しい学習をどうすればよいか、学校教育の最大の課題と言つても過言ではない。徳島県のある小学校では、モンゴルと国際交流をすすめている。少年野球チームがモンゴルに行き試合をしたりしながら、モンゴルの文化、民族について体験的に学習している。

子供たちの話によると、本で読んだモンゴルとは全然ちがう。日本は物質的に豊かだが、モンゴルの人々は心が豊かである、とのことであった。

これこそ、小学生時代の「生活学習」ではないかと感心したものである。

阪神大震災後の青年たちの自発的なボランティア活動に人々は目を見はった。生涯学習は自発的、自主的学習と実践が基本である。このことを住民も行政も深く認識する必要があると思う。

第37回全国社会教育研究大会(和歌山大会)を終えて

秋深まる紀州路に、全国各地から二千八百余名の社会教育関係者の方々をお迎えして、第三十七回全国社会教育研究大会(和歌山大会)が平成七年十一月八日から十日まで和歌山市で開催されました。

八代將軍吉宗ゆかりの和歌山城、万葉の詩情豊かな和歌浦、また一昨年三百万人の参加者を得て大成功をおさめましたリゾート博の会場となったマリーナシティの近くに位置する和歌山県民文化会館は、再会を喜ぶ活気あふれる参加者で埋め尽くされました。

昨年は戦後五十年、そしてポール・ラングランが生涯教育の理念を提唱して三十年という重要な節目の年に当たりました。また、臨時教育審議会答申において、生涯学習体系の移行が示されてから八年が経過しており、今あらためて生涯学習体系の移行について考える大事な時期ではないかと思えます。こうしたことから、生涯学習の観点にたつて、社会教育の今日的課題の解決をめざして研究討議を行うという趣旨で、本大会の研究主題は、「現代的課題に対応する社会教育の在り方を考える」と設定されました。

開会行事の中で、全国社教連の鈴木勲会長が、「生涯学習の基盤整備を推進

する核としての社会教育は、長い歴史と伝統を持ち、専門的な人材と施設を有し、今後生涯学習社会において最も重要な役割を果たす」と力強く呼びかけられたのが印象的でありました。

このあと、長年にわたり社会教育の振興に尽力された六十九名の方々に對する表彰があり、壇上に勢揃いした栄えある受賞者に万雷の拍手が送られました。

引き続き行われたシンポジウムは、「自然と文化をいかす地域づくり」をテーマに、和歌山大学教授の竹田真理子さんをコーディネーターとして、愛媛大学教授の讃岐幸治さん、宇部市生涯学習推進協議会前副会長の高良俊夫さん、南部町長の山崎繁雄さん、貴志川町教育委員会教育長の的場範夫さんの四人をシンポジストに迎えて行われました。

このシンポジウムでは、何が自然であるか、何が文化であるか、どんなところが地域づくりにいかせるのか、また、自然と文化をいかす地域づくりと、社会教育との関わり、生涯学習との関わりについて、体験談を入れながら、幅広い示唆に富んだご助言をいただきました。

第二日目は、十部会に分かれて研究

討議が行われました。各部会とも二名の問題提起者のほか、参加者からも貴重な事例や地域の課題等が発表され、熱気あふれる討議が続けられました。

特に今回は、部会数の関係から現代的課題の全てについて討議出来なかつたことが、多少心残りに思っています。第三日目は、和歌山県川辺町にある天音山道成寺の住職小野成寛氏をお迎えして、「道成寺芸術の展開」と題して記念講演をいただきました。

講演は、絵解き台の上に絵巻を置き、順に内容を説明しながら巻き取っていく方法がとられ、それを投影機で舞台正面大スクリーンに映写しながら進められました。

内容は道成寺の由来や日本の伝統芸能である能楽との関係など、道成寺縁起絵巻きによって、ユーモアたっぷりで紹介され、最後には、「親に孝行、子に慈愛、妻宝極楽どうぞ奥様を大事になさいませ」としめくくられ、参加者に深い感銘を与えました。

大会の締めくくりとして、「人権教育の推進」「健全な青少年の育成」「社会教育施設と指導者の充実・ボランティア活動の振興」「社会教育関係法の整備」「財政基盤の確立」の五項目を柱とする大会宣言文を決議し、今後の努力

を誓い合いました。

最後に、次期開催県である茨城県社会教育委員連絡協議会の落合勝雄会長から次回の全国大会の案内を兼ねた挨拶を、又大阪府社会教育委員連絡協議会の岩田光利会長から次回近畿地区大会参加に向けた挨拶をもって大会の幕を閉じました。

本大会では、参加者の皆様に紀州の特産品である梅を持ち帰りました。また地元的女性ボランティアによる茶席コーナーが設けられ、大変好評を得ましたことを嬉しく思っております。今回の大会で得ました種々な教訓を、今後の研究大会や研修会に生かしていく覚悟でございます。

最後になりましたが、本大会の開催に当たり、ご指導ご協力をいただきました関係機関・団体をはじめ、講師、役員等の方々から感謝申し上げます。

本大会の和歌山開催が決定されて以来、参加者の皆様を温かくお迎えするために、関係者一丸となって準備し、大会の運営に当たりましたが、何かと不行き届きの点がありましたことをお詫び申し上げます。大会の報告とお礼の言葉といたします。

和歌山県社会教育委員連絡協議会会長
第37回全国社会教育研究大会

実行委員長 久 昭三

地区研究大会を終えて

北海道地区社会教育研究大会を終えて

北海道地区大会は「自然を慈しみ、地域の特性を生かし、共に生きる社会の創造を目指して」を研究主題として九月六日・七日の二日間、夕日の美しい町として有名な日本海に面した羽幌町に、全道各市町村の社会教育委員をはじめ、社会教育行政・諸団体会員等五百六十名余りが参加して開催されました。

開会式では主催者を代表して北海道社連協会長新谷淳治がいさつに立ち最近読んだ書籍を事例に挙げながら、「今日、コンピュータの登場により知識労働者という言葉が使われるようになってきたが、その知識労働者との間のコミュニケーションが重要な問題になっている」とし「情報とは本来、意見や注釈、偏見などが自由に入り込んでいたものであり、情報の中からいかにそれらのコミュニケーションを引き出すかが、情報としてのあり方であった。しかし、今日の情報には、コミュニケーションをまったく含まないものになってきている」「人間とコンピュータが直結してしまつたいま、人間あるいは情報との横のコミュニケーションがなくなつてきた」などと言及「底流

に横たわっているものは、人間の尊厳性、人間として、あるいは人間らしきをもう一度考え直すことであり、魅力ある地域づくりのための根幹である「人間論」について大いに語り合つていただきたい」と述べました。

開会式のあと、日程に従い講話・部会討議、第二日目は講演・大会宣言採択等が行われ、熱心な学習が展開されました。

＜研究大会の概要＞

○講話 自然写真家 寺沢 孝毅

「天売島から自然を見つめて」

○部会（六部会の主題）

(1) よりよく生きるために

(2) 魅力ある地域づくり

(3) 現代的課題に対応する学習活動

(4) 高齢者の生きがいづくり

(5) 余暇の活用と健康づくり

(6) 地域の特色を生かした文化活動

○講演 映画監督 羽仁 進

「大自然との戦いの中で学ぶ！

今の社会・親・大人に欠けるもの」

※ 参加費 三千五百円

ほかに交流会費 五千円

北海道社会教育委員連絡協議会

事務局長 赤坂 正

東北地区社会教育研究大会を終えて

本大会は、すばらしい秋晴れのもと、国際交流型の学習都市をめざす青森県三沢市において、東北六県から六百余名の参加者を迎えて開催されました。

一 研究大会の概要

① 期日 平成七年九月二六日～二七日

② 会場 三沢市古牧温泉

③ 参加費 二千五百円

④ 研究主題

「生涯学習社会の形成をめざす社会教育のあり方を考える」

⑤ 記念講演

「人生勝負論」

日本大学相撲部監督 田中 英寿

相撲という一つのスポーツを通して、人材育成においては、一人ひとりの心をつかんだ指導が大切であることを話され、人づくりの意味の重さを示唆してくださりました。

⑥ アトラクション

浜三沢駒踊り保存会による駒踊り

⑦ 分科会の構成

主題 「生涯学習社会の形成をめざす社会教育の今日的課題と社会教育委員及び関係者の対応を考える」

第一 社会教育行政「西川町の生涯学習計画の策定について」

第二 学習情報・学習相談「学習相談に対応する体制づくり」

第三 学校外活動「地域少年わんぱく

広場開設事業から学校週5日制と遊びの中から子供の成長を考える」

第四 生涯学習ボランティア活動「棚倉町の生涯学習ボランティア活動」

第五 地域の活性化「行政の立場から生活者参画の町づくりを考える」

各県から、それぞれ今日の社会教育がかかえる課題を取り上げた実践事例が発表され、それについて活発に意見交換がなされたことは、大変意義深くまた時宜を得たものでした。

⑧ 全体会及び閉会式

はじめに総括助言がなされ、次にかねてからの念願であった東北地区社会教育委員連絡協議会の組織化が提案され、最後に大会宣言が採択されました。

その後、引き続き閉会式が行われ、主催者側の謝辞のあと、次期開催県代表の挨拶があり、大会の全日程を終りました。

⑨ おわりに

本大会を盛会のうちに終えることができましたのは、当日御参加いただいた皆様をはじめ、関係各位の御協力の賜物と感謝いたします。

青森県社会教育委員連絡協議会

事務局 山田 卓

関東甲信越静地区社会教育研究大会を終えて

花と海と太陽、南国ムードだたよう南房総の地、千葉県鴨川市を会場に平成七年度関東甲信越静社会教育委員研究大会が開催されました。

大会には一都十県の社会教育委員をはじめ社会教育行政職員・社会教育団体の会員等千五百余名が参加し、熱気に溢れた研究大会が展開されました。

一 研究大会の概要

○研究主題
「地域の特性を生かした生涯学習社会の創造」
— 社会の変化に対応した社会教育の推進 —

○期日 平成七年九月十三日〜十四日
○会場 鴨川グランドホテル・鴨川館

○参加費 三千元
○参加者数 約千五百名

○基調講演
「新しい時代の担い手育て」
国立信州高遠少年自然の家所長 松下 俱子

○分科会の構成
第一分科会
生涯学習推進体制「生涯学習推進体制の整備とまちづくり」

第二分科会
生涯学習関連施設「生涯学習関連施設の整備と連携」

第三分科会
国際理解教育「地域における草の

根国際交流への取り組み」
第四分科会
家庭教育「地域が支える家庭教育の推進」

第五分科会
青少年教育「青少年教育における「現代的課題」への取り組み」

第六分科会
高齢者教育「高齢者の学習機会の拡充と能力の活用」
○記念講演
「生きがいとしての花づくり」
園芸研究家 「NHK趣味の園芸」講師 江尻 光一

二 成果
大会テーマのもと、生涯学習社会の創造に向け積極的に研究協議を行い社会の変化に対応した社会教育の推進について確認することができました。

東海北陸地区社会教育研究大会を終えて

清流長良川のほとり、岐阜金華山の麓に新装なったばかりの長良川国際会議場を主会場として開催されました。好天の下に各県市から千五百五十名ほどが集まり、「日本のよさを生かした個性ある人づくり・まちづくり」を研究主題に、実践に向けての具体的で実効ある提案や討議を心がけていこうと進められました。

言うまでもなく近年の社会の変化のリズムが加速化され、それにとまわって早急に解決を迫られている課題は山積しております。そしてそれらの根源的かつ永続的な解決は結局教育が担うものであることも多くの人の指摘するところとおります。

今回の東海北陸大会では研究主題に示すように、私たち日本人がその長い歴史と伝統の中に育んできた感性・知性・理性の中に、現在も生き、将来にわたっても受け継がれ、時代の進展とともにますますその「よさ」が磨かれてしかるべきものを顕在化させ、その価値に光を当て、自信をもってふるさとの人づくり・まちづくりに貢献していきたいものと考えました。大会はこの意味もあつて、基調講演から始まりました。参加者はこの傾斜のもとに二日間わたって熱心な研究討議をされました。

○期日 平成七年九月二八日〜二九日
○会場 岐阜市長良川国際会議場
○参加費 三千元
○参加者数 千四百九十九名

○研究主題
「日本のよさを生かした個性ある人づくり・まちづくり」

○基調講演
「日本人の心情のすばらしさ」
正眼短期大学副学長 紀野 一義

○分科会
①「日本人の心情を生かしたまちづくり」(感謝・畏敬・調和)
②「日本人の心情を生かしたまちづくり」(伝統・祖父母・三世代)
③高齢者の生き甲斐あるまちづくり
④差別のない社会と住みよいまちづくり
⑤青少年の社会参加による活力あるまちづくり
⑥軽スポーツの普及とまちづくり
⑦奉仕友愛の心に満ちたまちづくり

二日目は全体会の後、式典行事を行い、当日ご参加いただいた皆様、お力添えをいただいた方々に厚く御礼申し上げます。

岐阜県社会教育委員連絡協議会
事務局長 馬 淵 成 寿

研究大会の概要

中国・四国地区社会教育研究大会を終えて

原爆の惨禍から五十年。みごとに復活した平和都市広島市に、中国・四国各県から社会教育関係者八百四十名をお迎えし、「第十八回中国・四国地区社会教育研究大会」を開催しました。

研究大会の概要

○期日 平成七年十月二十五日～二十六日

○会場 広島市青少年センター 他

○研究主題

「生涯学習社会の実現をめざした社会教育活動のあり方」

○記念講演

「チームづくりはひとづくり」

サンフレッチェ広島総監督

○アトラクション

シルバークォーラス トワ・エ・モア

○分科会

分科会テーマを設定して、各県から実践活動発表をもとに、熱心な研究協議が進められました。

第一分科会 青少年教育

「青少年の自立を促す学校外活動のあり方を考える」

第二分科会 成人教育

「生涯学習社会における学習活動のあり方を考える」

第三分科会 社会体育

「豊かなスポーツライフと健康増進のあり方を考える」

第四分科会 同和教育

同和教育

「差別のない明るい社会の実現をめざす活動のあり方を考える」

○シンポジウム

「いじめ問題の解決にむけて」

コーディネーター

広島大学教授 佐々木 正治

○シンポジスト

鳥取県社会教育委員 森田 純一

香川県社会教育委員 鶴身 正

高知県社会教育委員 三谷 英子

シンポジウムでは、「いじめの問題」

の解決に向けて、社会教育委員の果たすべき役割について、会場の参加者を

含めて真剣な研究討議が行なわれまし

た。家庭・学校・地域の三者の教育力

を高め、「いじめの問題」の解決を進め

ていくためには、地域の教育に携わる

社会教育委員の役割が重大であること

を認識しました。

研究協議後、生涯学習社会の構築に

向けた社会教育の果たす役割の重要性

と振興の必要性を深く認識し、五項目

の確認事項を参加者総意で確認した大

会宣言を採択し閉会しました。

最後に、この大会を盛会のうちに終

わらせることができましたのも、参加

者の皆様をはじめ、運営に携わって

いただきました関係者の皆様の御協力の

賜物と感謝いたします。

広島県社会教育委員連絡協議会

事務局 山口 清子

九州地区社会教育研究大会を終えて

「第二十六回九州ブロック社会教育研究大会」は、燃える桜島、きらめく陽光、南国鹿児島市において、九州・沖縄各県から社会教育委員をはじめ多数の社会教育関係者をお迎えして開催しました。

研究大会の概要

○大会テーマ

「生涯学習の視点に立つ社会教育のあり方」

○期日 平成七年十月二十六日～二十七日

○会場 鹿児島県文化センター 他

○参加費

三千元

○参加者数

千六百十一人

大会テーマのもと、六つの分科会に

おいて、人々の生きがい活動を支援し

地域発展を促進するための社会教育の

積極的な推進方策について、熱心な研

究協議が行われました。

第一分科会 社会教育委員の役割で

は、佐賀県と熊本県の発表をもとに、

生涯学習の観点に立った社会教育の推

進にどうかかわっていくかについて。

第二分科会 ボランティア活動の推

進では、大分県と宮崎県の発表をもと

に、生涯学習の観点に立ったボランテ

ィア活動をどのようにすすめるかにつ

いて。

第三分科会 学校週五日制と学校外

活動の充実では、宮崎県と長崎県の発

表をもとに、子供たちが主体的に生活

するため家庭や地域の教育力をどう高

めるかについて。

第四分科会 いじめ問題への対応で

は、福岡県と鹿児島県の発表をもとに

人間としての基本的態度を育むため地

域や家庭の教育をどうすすめるかにつ

いて。

第五分科会 社会同和教育の推進で

は、大分県と鹿児島県の発表をもとに

地域社会の実態に則した啓発活動をど

うすすめるかについて。

第六分科会 社会教育関係団体の育

成では、長崎県と沖縄県の発表をもと

に、生涯学習の観点に立った社会教育

関係団体をどのように育成するかにつ

いて。

各分科会ともに、地域課題解決のた

めの新たな取り組みや長年積み上げて

きた成果などの意見交換がなされ、今

後の活動に大きな示唆を与えた。

○アトラクション

日吉町扇尾保育園「扇尾子供太鼓」

○記念講演

「人間、この不可思議なもの」

鹿児島純心女子短期大学副学長

濱里 忠宜氏

以上、本大会開催にお力添えを賜り

ました皆様、御参加いただいた皆様に

心よりお礼を申し上げます。

鹿児島県社会教育委員連絡協議会

事務局 原 森 一

大会宣言文

全国各地の社会教育委員をはじめ社会教育関係者が「山と海とロマンの地」和歌山に集い、「現代的課題に対応する社会教育の在り方を考える」を研究主題に、第三十七回全国社会教育研究大会を開催した。

平成二年七月、「生涯学習振興のための施策の推進体制の整備に関する法律」が施行され、はや五か年が経過した今日、国や地方公共団体における生涯学習推進体制の整備が大きく進展し、それぞれの地域の特色を生かした諸施策が講じられている。

こうした状況の中で、私たちは、生涯学習社会の構築をめざす観点に立ち、残されている課題や新たな課題を問いかけ、その解決を図るため、全国各地で実践してきた活動状況や研究成果を持ち寄り、研究討議を深めた。

そして、豊かな生涯学習社会を築いていくためには、家庭、地域社会、学校、企業、社会教育関係団体及び行政が各々の役割を果たすとともに、新しい視点に立って、より密接な連携・協力ができる社会のシステムを作りあげていく必要があることを確認した。

生涯学習推進の中核として社会教育の果たすべき役割が今後ますます重要になると予想されることから、私たちは、その責務を自覚するとともに、なお、一層の努力をすることを誓い合い、本大会の総意をもって、次の事項の早期実現を期すものである。

- 一 人権を尊重し、差別のない明るい社会を実現するための教育を積極的に推進すること。
- 一 個性豊かで、思いやりとひろい心を持ち、たくましく生きることのできる青少年の育成を図ること。
- 一 人々の学習活動を支援するため、学習機会や施設・設備を拡充するとともに、専門的指導者の育成・確保並びにボランティア活動の振興を図ること。
- 一 今日的課題に対応し得る社会教育を推進するため、社会教育関係法の整備を促進すること。
- 一 社会教育を積極的に推進するため、財政基盤の確立を図ること。

平成七年十一月十日

第三十七回全国社会教育研究大会（和歌山大会）

第22回 ヨーロッパ社会教育視察団参加者募集

本会は昭和50年度より毎年社会教育委員、教育委員、社会教育行政職員、社会教育団体会員等のためにヨーロッパ諸国の社会教育事情の視察団を編成し、実施して参りました。本年も下記の内容で第22回ヨーロッパ社会教育視察団の団員募集を開始致しますので、またとない機会に是非ご賛同頂きご参加をお勧め致します。

1. 目的 ヨーロッパ各地の社会教育施設を見学して、その活動状況を視察する。さらに各国の著名なる建造物、史跡、博物館・美術館を巡り教育文化を学ぶ。
2. 期間 平成8年11月6日(水)～11月18日(月)
3. 旅程 東京→ウィーン(3泊)→ブダペスト(1泊)→ジュネーブ(2泊)→パリ(2泊)→ロンドン(3泊)→東京
4. 主要視察先
 - ①ウィーン…国民高等学院、シェンブルン宮殿、ベルベデーレ宮殿、聖シュテファン寺院市庁舎、国立オペラ劇場
 - ②ブダペスト…マーチャーシ教会、英雄広場、漁夫の砦、国会議事堂
 - ③ジュネーブ…成人学校、オービブ公園、宗教改革記念碑、モンブラン橋、パレナシオン
 - ④パリ…ボンビドーセンター、ノートルダム寺院、ルーブル美術館、トロカデロ広場、エッフェル塔、凱旋門、コンコルド広場
 - ⑤ロンドン…成人学校、大英博物館、バッキンガム宮殿、ロンドン塔、セントポール寺院、国会議事堂
5. 参加経費 480,000円(全朝食付、ベテラン添乗員が全行程ご案内致します。)
 - ※社会教育委員の方には、本会から20,000円の助成金があります。
 - ※全食事を加えた場合、約75,000円の追加経費でご手配致します。
6. 募集人員 25名(先着順、定員になり次第締切)
7. 募集締切 10月19日(土) 10月下旬旅行説明会開催
8. 応募方法 はがきで全国社会教育委員連合へお申し込み下さい。
 - ※訪問都市各地で世界的に有名な博物館を見学します。
 - ※フランス新幹線(TGV)とユーロスターの2つの列車の旅を加えました。
 なおご請求下されば詳細資料等お送り致します。
9. 旅行業務 旅行に関する一切の業務は、近畿日本ツーリスト(株)虎ノ門海外旅行事業部が担当します。
10. 連絡申込先 〒100 東京都千代田区霞ヶ関3-2-3 国立教育会館内
社全国社会教育委員連合 TEL. 03-3580-0608

第38回全国社会教育研究大会をめざして

「日本三三大公園・偕楽園」で知られる歴史と梅の都「水戸」、日本で初めて原動力の火が灯された「東海村」、日本の研究学園都市「つくば」、最も近代的な人工湾の「鹿島港」、サッカーで名を上げた「鹿嶋市」。

この茨城県で、平成八年十月二十三日から三日間、全国各地から社会教育委員をはじめとする社会教育関係者の皆様をお迎えして、第三十八回全国社会教育研究大会を開催いたします。

会場となる水戸市は、茨城県のほぼ中央に位置します。前回開催地の和歌山市と同様、徳川御三家の一つの城下町として、長い歴史を育みながら、先人の遺産を大切にしつつ、新しい時代の息吹きを受けて、活力ある文化と創造に輝く都市へと発展している県都です。

さて、江戸時代の水戸藩の歴史に残る人物像としては、テレビのドラマでお馴染みの水戸黄門（徳川水圀）をはじめ、人材を育てるため、藩校「弘道館」の創設や領内の全ての民とともに楽しむという意から名づけられた「偕楽園」の造園等、多くの文化遺産を残した徳川斉昭等が挙げられます。

その偕楽園の表門から、昼なお暗い竹林、そして生い茂った杉林をくぐり、暗から明へ急変し、太陽の光がふりそそぐ好文亭へ、そして、約三千本・百種にのぼる梅林、さらに東に歩むと眼

下に千波湖を臨むことができます。斉昭が漢詩に著した「仙湖の暮雪」の碑が建ち、そこからの夕映えの眺望は、人々の心に安らぎと希望を与えてくれる景勝地です。

偕楽園のある水戸をあとにして、磯節に歌われた「水戸を離れて、東へ三里」に「波の華散る大洗」があります。磯の香りを後に北西に進むと日本三大瀑布の一つ「袋田の滝」（別名・四度の滝）があります。近くの日本一を誇る歩行者専用の龍神大吊橋からの眺めを惜しみながら、南東へ車を進めると、広々とどこまでも続く関東平野の中に紫峰「筑波山」が聳え、裾野に横たわる霞ヶ浦からの眺めは人々を魅了させてくれます。

世界湖沼会議が開催された「つくば市」を西に進むと結城紬の故郷「結城市」の古い街は県境近くになります。再び、「水戸」に戻りますが、文化創造の拠点としての「水戸芸術館」や県立の「近代美術館」・「歴史館」には、ぜひ立ち寄って、ご覧いただきたい施設でございます。

水戸へのアクセスは、常磐高速道路で東京からも、いわきからも一時間余りJRの常磐線利用でも、特急電車で両方面から、約一時間で着きます。

素晴らしい大会を開催された和歌山に学び、関東甲信越静地区の各都県の

ご協力をいただきながら準備を整えまして、お越しをお待ち申し上げております。新旧の魅力いっぱい茨城県・水戸でお会いできることを、楽しみにしております。

次に、大会の開催要項を要約します。

◇研究主題
「一人ひとりの心が満たされる、魅力ある社会教育の在り方を考える」

◇期日
平成八年十月二十三日（水）～二十五日（金）三日間

◇会場
茨城県民文化センター・ほか

◇大会日程

「第一日」十三時～
・開会行事・シンポジウム
「国際化時代を迎える中で、豊かな生涯学習を築いていくために」

「第二日」十時～
・部会別研究協議（八部会で構成）

「第三日」十時～
・記念講演・閉会行事
・部会名と研究主題

1 学習機会の充実、情報提供・学習相談
・人々の多様なニーズに対応する学習機会の在り方を考える。
・人々の学習活動を支援するため情報提供・相談体制の在り方を考える。

2 家庭教育・青少年教育

3 成人教育・高齢者教育
・時代の変化に対応できる成人教育の在り方を考える。
・高齢者の生きがいを高めるための社会教育の在り方を考える。

4 ボランティア活動・国際理解
・人々の学習活動を支援する人材の育成と活用の在り方を考える。
・国際的視野に立った相互理解と交流の在り方を考える。

5 郷土文化・スポーツ活動
・郷土文化の伝承と新たな文化の創造をめざした活動の在り方を考える。
・健康と生きがいづくりとしての生涯スポーツの在り方を考える。

6 同和教育・人権教育
・人権を尊重し、差別のない明るい地域づくりをめざす社会教育活動を考える。

7 地域の活性化・まちづくり
・地域の特性を生かした魅力あるまちづくりの在り方を考える。

8 男女共同参画社会
・男女共同参画社会をめざした明るい社会づくりの在り方を考える。

茨城県社会教育委員連絡協議会長
第三十八回全国社会教育研究大会
実行委員長 落合 勝雄

事務局だより

◆平成7年度第2回総会終る
平成7年度第2回目の総会が第37回
全国大会(和歌山大会)の第1日目に
次の通り開催されました。

会場 和歌山県民文化会館大会議室
総会は定刻に司会者より開会を宣し
本総会は定款第26条により定足数(正
会員数60名中出席者54名)を満たし成
立する旨を告げ、まず鈴木勲会長の挨拶
があり、次に久昭三第37回全国大会
実行委員長より全国大会開催について
各県の協力に対してお礼の挨拶があり
ました。

ひきつづき議長の選任を行い、住岡
英毅滋賀県会長を選出し、議事録署名
人として秋山一夫栃木県会長と志賀清
己大分県会長を指名して議事に入りま
した。

第1号議案 第38回(平成8年度)全
国大会の開催について

落合勝雄茨城県会長より大会開催
要項案について詳細な説明があり、
期日は平成8年10月23日(水)、24日(木)、
25日(金)の3日間、水戸市の茨城県立
県民文化センターにおいて開催した
い旨発表があり、満場一致で承認、
可決されました。

第2号議案 第39回(平成9年度)全
国大会の開催地区(ブロック)につ

いて
新谷淳治北海道会長より、第39回
全国大会の開催地区は北海道地区
(開催日程案・平成9年10月1日
〜3日、予定会場・釧路市観光国際
交流センター)になる旨発表した結
果全員異議なく承認し、総会は閉会
しました。

◆平成8年度 地区別社会教育研究大
会開催の概要について

平成8年度地区別(ブロック別)社
会教育研究大会の開催県、開催期日、
開催会場、研究主題等を紹介します。

・北海道地区 浦河町

期日 平成8年10月17日〜18日

会場 浦河町総合文化会館

主題 「自然と人間とのふれあいを
通し、失われつつあるふるさと
と感覚を培う社会の創造を目
指して」

・東北地区 秋田県
期日 平成8年9月26日〜27日
会場 秋田県総合生活文化会館
主題 「生涯学習社会における社会
教育の役割を考える」

・関東甲信越静地区 新潟県
期日 平成8年9月12日〜13日
会場 新潟県民会館
主題 「生涯学習社会を目指す、活
力ある社会教育の創造」

・東海北陸地区 石川県
期日 平成8年9月19日〜20日
会場 金沢市観光会館

・近畿地区 大阪府
期日 平成8年7月17日〜18日
会場 大阪府立青少年会館
主題 「生涯学習時代における社会
教育のあり方と社会教育委員
の役割について」

・中国・四国地区 徳島県
期日 平成8年9月5日〜6日
会場 徳島県郷土文化会館
主題 「生涯学習社会の実現をめざ
した社会教育活動のあり方」

・九州地区 沖縄県
期日 平成8年10月8日〜9日
会場 那覇市パシフィックホテル
主題 「生涯学習の視点に立つ社会
教育のあり方」

・指定都市 仙台市
期日 平成8年5月16日
会場 仙台サンプラザ

◆県・指定都市の社教連会長に就任
(敬称略)
兵庫県 大野栄美夫
千葉市 大塚 英子
横浜市 村橋 克彦

社教情報

34号〔A5判 64頁〕定価300円(税込) 190円 平成8年2月下旬発行予定

全国で御活躍の社会教育委員を結ぶ唯一の機関誌であります「社教情報」第34号を下記により発行いたし
ます。全国各地の社会教育委員の交流と研修の糧として、御購読下さいますようお願い致します。

特集「生涯学習ボランティア」

- ◆ 論文 生涯学習ボランティアとは? 横浜国立大学教授 野垣 義行
◆ 論文 生涯学習ボランティアの現状 神奈川県川崎市社会教育委員 柴田 頼子
◆ 誌上講座 生涯学習ボランティアの養成 国立科学博物館教育部長 大堀 哲
◆ 事例 福島県棚倉町中央公民館 グループ・ジャンケンボン 三重県二見町教育委員会
◆ リポート 清水秋弘(山梨県長坂町) 松見 茂(滋賀県今津町) ◆ 視察報告 ◆ 随想
古井忠祝(山口県菊川町) 岩下善英(福岡県朝倉町) ◆ 思考と提言
編集/社団法人 全国社会教育委員連合 発行/財団法人 全日本社会教育連合会